

## 「聖書が語る死後の世界」

### レムナントキリスト教会

本日は聖書に基づき、私たちの死後の行く先に関して考えて見ましょう。私たちは学校であらゆる知識を学びます。国語も算数も理科も社会も学ぶわけです。しかし、大事なこと、人生で大事なことは必ずしも学校で学べるわけではありません。

たとえば、私たちは死後どこへいくのでしょうか？このように大事な疑問に関しては必ずしも学校では学べないわけです。ある人は、人は死後千の風になるといいます。他の人は死後天の星となる、といいますが。また他の人は確信を持って人は死後「無」になるのだ、といっています。しかし、何が正しいのか誰もわからないわけです。

＜聖書は死後の世界に関して断言する＞

さて、私たちの死後のことに関して聖書は以下のように明言しています。

**ヘブル9:27 「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」**

この箇所はどんな人にも定まっており、経験する2つのことがらに関して語ります。そのひとつは誰でも必ず死を経験すること、これは、子供でも知っています。しかし、もうひとつ我々が知らないことがあります。それは死後全ての人は例外なく、神のさば

きの座、すなわち、裁判の座に着く、ということです。その裁判の座で私たちが生きていた間に行なった全ての行いに対して裁判を受けるのです。そして、裁判の結果、ある人は無罪放免、何のおとがめもなく、天国へ直行します。永遠の天国です。しかし、有罪とみなされた人は地獄、もっとはっきりいうと永遠の火の池に投げ込まれます。以下のとおりです。

**黙示録20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。**

火の池に投げ込まれてはたまったものではありませんので、私たちはそのような結果にならないよう、回避するべく、努力をすること、裁判に備えることが肝心だと思われれます。昨今、終活ということばがブームであり、死への準備として、遺言書やら、葬式の写真の用意などが語られています。それはそれで多少は意味のあることでしょう。しかし、終活をどんなにきちんに行なっても肝心の本人が死後火の池に投げ込まれては何の意味もありません。ですので、私たちのもっとも大事な終活は、死後の裁判の日への備えなのです。

## 「聖書が語る死後の世界」

### ＜聖書は信頼に足る書＞

さて、聖書なんていっても、そんな昔の本のことなど、俺は知らない、どうせ、神話や非科学的な本なんだろうという意見もあるかもしれません。聖書は、日本人にはなじみのない書なので、そんな意見もあるのでしょうか。しかし実際は聖書は現代の科学以上に科学的です。一例をあげれば、聖書は人々が「大地は亀の上に支えられている」などと思っていた時代に地が何もないところに掛けられる、すなわち地球が宇宙に浮かんでいることを明言しています。3000年以上前に書かれた聖書のヨブ記は以下の様に語ります。

**ヨブ26:7 神は北を虚空に張り、地を何も  
ない上に掛けられる。**

さらに聖書はこの地球が球体であることをも語ります。2700年もの昔に書かれたイザヤ書はこう語ります。

**イザヤ40:22 主は地球のはるか上に座して、  
地に住む者をいなごのように見られる。**

このように、地上の誰ひとりとしてこの地球が球体であることなど考えもしなかった昔から、ひとり聖書は正しい真理、地球が球体であることを語っていたのです。

さらに聖書には人の書いたどんな書も及ばない、非常に特殊、ユニークな点があります。すなわち、聖書は未来を語る預言の書なのです。聖書の3000節以上が、未来への預言を語っています。そしてそれらはみな成就してきているのです。これは驚くべきことです。そもそも未来を語り、それが正しく成就するなどということは人間には不可能なのです。たとえば、1999年頃、日本全国で有名になったのは、ノストラダ

ムスの予言です。「1999年7の月に空から恐怖の大王が降ってくる」との

予言は日本中で有名になり、多くの人がその時を不安な気持ちで迎えたのです。さて、それではその時に何か特別なことが起きたか、というと何一つ特別なことは起こりませんでした。何一つ起きなかったのです。予言は外れたのです。かくのごとく人間の語る未来の予言は外れるものであり、正確に未来を見通すことは人には難しいのです。

それに比べて聖書の予言とその的中性は驚くべきものがあります。未来への予言がことごとく成就しているのです。外れた預言などひとつもないのです。バビロン、メディアペルシャ、ギリシャなど多くの国に関する預言が成就しています。また、イエス・キリストの生涯に関してもその生誕以前に300以上の預言が語られていました。そして、キリストの生涯の中でそのすべての預言は成就しました。

たとえば、旧約聖書（キリスト誕生以前に書かれた聖書）ミカ書では、キリストの未来の誕生の場所を預言してキリスト生誕の800年も前に以下の様に語ります。

**ミカ 5:2 ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。**

そしてキリストは実際、ここに預言されたようにベツレヘムで生誕したのです。

また他にもキリストはその親しい友に裏切られる、銀貨30枚で売られるとの預言が前もって語られていました。この預言も成就しました。キリストは親しい友であるイ

## 「聖書が語る死後の世界」

スカリオテのユダにより、裏切られ、彼により銀貨30枚で売られてしまったのです。さらにまたキリスト自身が語った未来に関する予言も成就しています。イエス・キリストは生前、西暦30年頃、エルサレムの都が崩壊する日を予言して以下の様に述べました。

ルカ 19:41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、

19:42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。

19:43 やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、

19:44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」

このようにキリストはエルサレムが敵に攻められ、徹底的に破壊、壊滅する日を予言したのです。このことばは、40年後に正確に成就しました。西暦70年にローマはエルサレムを包囲しこれを攻撃し、壊滅させ、全ての住民を殺害、滅ぼしてしまいました。キリストが予言したことばが正確に成就したのです。このように聖書で語られる予言は人知を超えています。未来への予言の成就とは、未来を知る神以外には不可能なことがらなのです。

その同じ聖書が人の死後の未来に関して、死後すべての人が神の前に出て、裁判の座

につくことを明言していますので、私たちはこのことばに耳を傾けたいと思うのです。

### ＜神の法律、聖書の十戒＞

さて、死後神の前での裁判があるというなら、その裁判の基準、よってたつ法律があります。人間の裁判も法律に従ってさばかれます。死後の裁判にも基準となる法律、戒めがあります。それは、聖書で十戒と呼ばれている10個の教えです。私たちがその戒め、法律を全て完璧に守っているなら、私たちは死後、大手を振って天国へ入れます。しかし、どれも違反しているなら、天国へ入るのは難しくなるでしょう。私たちは十戒を守っているのでしょうか？果たして私たちの死後の運命はどうなるのか？十戒に沿って、少し考えて見ましょう。

### ＜第一の戒め：神を拝する＞

その第一番目の戒めを見ることにしましょう。以下の様に書かれています。

” 出エジプト 20:3 あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。”

一番目の戒めの主旨は、神が存在していること、この真の神以外の神を拝するべきでない、という戒めです。この戒めを私たちは守っているのでしょうか？私たちが正しく守っているなら死後の裁判の座でとがめられることはありません。しかし、我々がそもそも神の存在など認めていない、信じても認めてもない、ということなら、その日、我々は無罪どころか、有罪、罰則の対象となります。

## 「聖書が語る死後の世界」

＜神は存在しないという愚かな考え＞

しかし、残念ながら、今の日本では神を信じている、などという非科学的な妄信者扱いのようです。しかし、聖書は神はいない、などという人々は愚かな者であることを語ります。以下のとおりです。

**詩篇14:1 愚か者は心の中で、「神はいない。」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない。**

果たして神はいない、と考えることは愚かなことなのでしょうか、それとも賢いことなのでしょうか？少し考えて見ましょう。神は目に見えないから存在しない、と多くの人が言いますが、実は目に見えない神の存在は証明することができます。少し聞いてください。

たとえば、霞ヶ関ビルや、スカイツリーなどの建築物の存在は、その建設者の存在を証明します。どこの建設会社を作ったかは別として、その建物が立派にできあがり、存在している事実は明らかに「建設した人」の存在を証明しているのです。もし、強いて建設した人がいないというなら、その建物は偶然にできたこととなります。公園のコンクリートやら、石やらが風などで飛んできて偶然にできた、ということになりますが、そんな考えを誰も本気にしません、建設した人がいないのに、建物が存在することなどありえないのです。

また、モナリザなどの絵の存在はその絵を描いた画家の存在を証明します。もし画家がいないのに、偶然に絵ができたとして強いて主張するなら風でペンキが飛んできてこのうまい美人画ができた、とでもい

うのでしょうか、そんな考えには誰も同調しません。事実この絵が存在するその裏には必ずこの絵を描いた画家が存在していることを語るのです。

さて、同じ意味合いで被造物、すなわち神によって創造された人間や犬、猫、そして太陽や地球の存在はこれらを創造した神、目に見えない神の存在を証明しているのです。モナリザの絵はどれほど、名画でもしよせん絵に過ぎない、ともいえます。絵の女性が話すわけでも歩くわけでもないのです。しかし、神が創造した女性は話し、歩きます。モナリザの絵でさえ、偶然には描かれません。まして、さらに複雑な存在である人間の女性が偶然にできた、と主張する人は愚か者といわれてもしかたがないでしょう。進化論などの愚かな理論をうのみにして神はいない、と語る人は聖書のいうように愚かな者なのです。聖書はこのことに関してこう語ります。

**ロマ1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。**

神は確かに目に見えないがその存在やら、性格、能力などは神によって創造された被造物すなわち、人間や鳥、犬、猫、植物、月、星などによって知られると語るのです。ひとりの人間は60兆個もの細胞からなります。そして、それぞれの細胞には百科事典に相当する情報量を持つDNA、遺伝子が含まれているのです。一人の人の構造さえ、このように驚くべき複雑さです。いったい神以外に誰がこのような複雑な人間を創造することができるのでしょうか？ですから、神を否定する人が「神は見えないから神が存在しているとは思わなかった」などと死



## 「聖書が語る死後の世界」

後の裁判の席で語ってもそんな人には、「弁解の余地がない」ことを聖書は語るのです。

### <神の存在を否定する人への神の怒り>

神の存在を否定する人は十戒の最初の戒めを堂々と犯しているのであり、その人の未来は明るいものでも天国でもありません。逆に死後の裁判では有罪となり、罰を受けることとなります。聖書はそのような人々、人間は偶然にできたとする進化論などを根拠に神を否定する人々に対して神の怒りが啓示されていることを語ります。以下のとおりです。

**ロマ 1:18** というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。

ここに書かれているように、進化論などの不義、インチキな教えを根拠に聖書の語る真理、神の存在の真理をはばんでいる人々、そのような愚かな教えに同調している人々に対して、神の怒りが湧き起こっており、その怒りが天から啓示されていることが語られているのです。私たちが神を怒らせておいて、一体どうして死後の裁判で無罪だとか、天国へ入るなどということが期待できるでしょうか？ありえないことです。逆に私たちの人生も未来も神の怒りがかう、呪いの歩みに入る可能性があります。人間の社長でも雇った部下が毎朝挨拶もせず、自分をシカトするなら、腹をたてるでしょう。同じく神が人を創造したのに、その人である我々が一生の間神をシカトし続けて、神からの祝福や配慮などどうして期待できるでしょうか？その様な人が死後神の

裁判の座で無罪になるはずがありません。神は目に見えないので、私たちが神を信じないことは、無理のないこと、しかたのないことでしょうか？聖書はこういいます。

**ロマ 1:19** なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。

神は人に対して、説明責任を果たしており、それぞれの人に対して、「神について知りうることは、彼らに明らかである」ことを語ります。たとえ進化論などの神を否定する教えを聞いても、私たちの心の中には良心があり、「本当にそうなのか？実は神は存在しているのではないのか？」との声を良心が語るのです。私が昔学生だった頃、同じ学校の友達のM君にここに書いているような神の存在に関して語りました。彼はクリスチャンでもなく、聖書も読んだことはなく、教会にも行っていません。しかし、彼はこういったのです。「x xさん。（私の名前）僕は人はみなそう思っていると思う。みな心の中では神が人を作ったのではないか、と思っていると思う」そう語ったのです。クリスチャンでもない彼がいみじくも語ったように、人の心には、神が備えた良心があり、その声は神の存在について語るのです。

### <進化論は嘘の多いエセ科学>

私たちが学校で進化論を学ぶことは事実です。その結果、神の存在を否定し、人は死後無になるなど考えるようになることも事実です。しかし、そもそも進化論は正しい、科学的な矛盾のない教えなのでしょうか？ことは、神の存在や私たちの未来の運命に関することでもあるので、少しまじめに考えてみましょう。実は進化論の間

## 「聖書が語る死後の世界」

違いやインチキに関してはたくさんの情報があります。しかし、紙面の関係で本日は少しだけ述べます。

それは、進化論のひとつの嘘、「ヘッケルの胚の図」のことで、生物の教科書には、ヘッケルの胚の図が載っています。それは、人や鶏、カエル、魚などの胚が同じ形であることを示す図です。この図だけ見ると確かにどの生物も胚が同じであり、同じような形からそれぞれ進化したと思えてしまいます。この図は進化が正しい真理であることを示す証拠のように思えてきます。しかし、驚くべきことですが、これは実際の各生物の胚を示す図ではありません。そうではなくて、架空の胚を描いたインチキの絵なのです。事実は下の図を見てください。この偽りはヘッケルが図を描いた当時、すでに人々から指摘されており、ヘッケル自身が「進化論にあわせて捏造の図を描いた」ことを認めています。しかし、何故だか今でも教科書にこの絵が使われています。

もうひとつ書いてみます。それは、インチキ化石ピルトダウンのことで、進化論ではサルが進化して人間になったとします。そしてサルと人間の間の中間種、類人猿が必ず、化石から見つかるはずだと語ります。

しかし、実際は現在までサルと人間の中間の種などひとつも見つかっていません。いくつかのそれらしいものが見つかっていることになってはいますが、実際は正しい意味ではひとつも中間種は見つかっていません。そして、その後、ピルトダウンという確かにこれこそ人間と猿との中間種という化石が見つかりました。それは教科書にも長い間掲載されていたのです。しかし、後年この化石のインチキがばれました。こ

の化石は人間の頭蓋骨にサルのあご骨をくっつけた、人が細工して作り上げたものだったのです。おどろくべき捏造です。これらは一例であり、進化論はこのようにインチキやら捏造のオンパレードの教えなのです。逆に我々はこのことを通して進化論という架空の理論の実態をしらなければなりません。すなわち、それは嘘の証拠や、捏造をもってこなければ、どうにも成り立たない無理な理論であることがわかるのです。事実は神が人を創造したとの聖書の記述が正しいのです。ですから、もし私たちが進化論を根拠に神を否定した歩みを今までしていたなら、その過去の歩みを神に悔い改め、歩みや考え方を改めない限り、死後天国へ入るのは不可能であることを知しましょう。

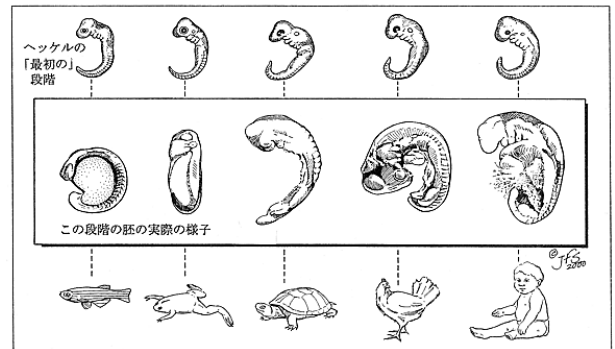


FIGURE 5-2 ヘッケルの絵と実際の脊椎動物の胚の比較  
Jonathan Wells, *Icons of Evolution* (2000)より

**捏造されたヘッケルの胚の図：**

**(学校の教科書で使用されている)**

**絵の一段目はヘッケルの描いた魚、蛙、亀、鶏、人の胚の図（似たような胚の図を描いているが実際を反映していない）**

**絵の2段目は実際の魚、蛙、亀、鶏、人間の胚の図（実際の胚はお互いどれもぜんぜん似ていない）**

## 「聖書が語る死後の世界」

### <それ以外の十戒>

それ以外の十戒の戒めを考えて見ましょう。私たちは今まで嘘をついたことがあるでしょうか？また、盗んだことがあるでしょうか？また、イエスは色情をもって女を見るものは誰でも心の中で姦淫を犯していると語ります。この件はどうでしょうか？これらのどれかの戒めでも犯しているなら、私たちは神の戒めを破っています。

### <私たちは有罪でしょうか、それとも無罪でしょうか？>

さて、本日は神の十戒のうちのいくつかに関して語りました。どうでしょうか？自分の状況と照らし合わせて問題ないでしょうか？私たちはこれらの戒めをみなクリアしており、守っており、十戒と照らし合わせて、自分は無罪確定でしょうか？それとも戒めを破っていて有罪となるでしょうか？自分で考えて見ましょう。

### <私たちは天国へ行けるでしょうかそれとも…？>

そして上記結果を踏まえていったい私たちが死後どこへ行くのか考えて見ましょう？私たちは死後の裁判で無罪と判断され天国へ入れるのでしょうか？それとも有罪と判断され、地獄へ入りそうでしょうか？

### <死後の裁判への不安>

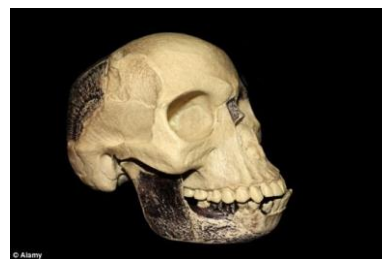
もし、自分の死後、天国へ入れる自信がない、という場合、死後の裁判またその結果に対して、不安がわきます。その場合、私たちはどうすればよいのでしょうか？

### <キリストの十字架>

神は愛であるがゆえに、そのような私たち、神の戒めを破り、結果死後の裁判で有罪となり、天国へ入れそうもない私たちに対して特別な道、罪の借金を払ってくださる道を開いてくださいました。それは、神のひとり子であるイエスキリストが私たちが犯した罪の代わりに罰を受け（十字架にかかる）、罪の借金を払う、という方法です。このことを信じ、キリストを心に信じる人は死後の裁きや罰から免れることが聖書には書いてあります。以下のとおりです。

**ヨハネ3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**

ぜひ、今日、神の御子であるイエスキリストを信じ、信頼し、自分の心に受け入れましょう。そのとき私たちは神により自分の犯した罪を許され、死後の裁判で有罪、地獄の罰へ入り、滅びることから免れます。天国への道が開かれます。—以上—



**捏造されたピルトダウン人の化石  
(人間の頭蓋骨に猿の下顎の骨を  
組み合わせたもの)**

## <お知らせコーナー>

### ☆レムナントキリスト教会「初心者、ノンクリスチャン向け集会」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午後 15:30-17:00

場所:東京都、京王線府中駅10分

場所は以下の教会HPで確認もしくは電話ください。

教会への連絡:tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

- \* どなたでも来会歓迎、入場無料です。当教会はプロテスタント教会であり、エホバの証人、モルモン教、統一教会とは一切関係ありません。

教会のHPがあります。以下の記事がアップされています。

- \* 教会メッセージ動画
- \* クリスチャンになったことの証(体験談)
- \* 進化論の間違い、人は神によって創造されたことの記事。
- \* 聖書は科学的である、科学が進歩して初めて発見された真理を昔から聖書が語っていた。
- \* 聖書は人間の人生におけるあらゆる問題、悩み、トラブルに関する正しい解決を語る。

ご興味のある方は、「レムナントキリスト教会」で検索ください。

## <偉人と聖書>



### ヘレン・ケラー:

アメリカの教育家・社会福祉事業家。自らも重い障害を背負いながらも、世界各地を歴訪し、身体障害者の教育・福祉に尽くした。

**「私が毎日、もっとも愛読する書物、それは聖書です。私の辞書に”悲惨”という文字はありません。聖書はダイナミックな力であり、変わることのない理想を示すものです。」**